

第37回定期九州本部大会

8月31日（火）の12:30より、サンメッセ鳥栖にて第37回定期九州本部大会が開催されました。博多地区本部からは、佐籾康徳氏（久留米運輸センター）に議長を務めていただき、萩原弘司氏（博多車掌区）、岩田佳史氏（博多運転区）、井上喜代彦氏（南福岡運転区）の3名の代議員に職場の問題点や組織の在り方について発言していただきました。月に一度の組織 - 交通対策合同会議で交わされてきた議論の成果が本大会にて十分に発揮されていたことと思います。皆さんお疲れ様でした。



萩原 弘司代議員
(博多車掌区)

この数年、毎年のように地震や水害などの自然災害が発生している。「数十年に一度」の言葉も聞き飽きた感じがある。今年8月の大雨時には、避難勧告が出ている中、見切り発車させたり、北方で抑止となった列車を浸水させる等の大失態。テレビもないので気象情報を見ていないのか？2年前の高橋～大町の水害を忘れたのか？我々、乗務員には異常や危険を感じたら、直ちに列車を止めろと言っておきながら、もし、お客さまや乗務員に何かあったら災害ではなく会社による人災となる。災害時の通勤についても問題が多くある。私の場合、在来線が運転見合わせで、さらには国道が冠水し通行止めだったので山越えで新鳥栖へ行き新幹線出勤したが、便宜乗車の取り扱いもなかった。他に交通手段がなく唯一の選択肢として新幹線を利用する者が多いという事実を会社は考慮すべきである。



岩田 佳史代議員
(博多運転区)

この5月より線見を行い香椎線を乗務しているが、香椎駅での充電時のパンの上げ下げはとても緊張する。今後乗務員の減少に伴い、香椎線では近い将来運転士ではなく係員を前頭運転台に乗務させての自動運転を行う、と会社は約2年前に発表した。運転するだけなら機械で行えるが、途中で車両故障や踏切事故などが発生した際に手動で運転するには運転士の資格が必要ではないのか。3月のダイヤ改正から筑肥線にてホームドア稼働と6両ワンマン運転が実施されたが、8月に入り今宿駅と下山門駅でホームドアの不具合が発生した。この際、保安要員も配置されず指令の指示もコロコロ変わった。ワンマンSW・モニター・ホームドアと使う者の意見を聞かずに設置し、不具合に対しての対応も準備もしないとは呆れてものが言えない。